

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

研究題目	破裂脳動脈瘤の大きさ・部位・年齢・性差、脳血管攣縮・遅発性脳虚血、治療法・転帰の長期変化と関連因子の研究
研究期間	2018年11月1日～2027年12月31日
対象患者	当院に入院した破裂脳動脈瘤患者さん
対象期間	1978年1月1日～2020年12月31日
研究機関の名称	島根県立中央病院
実施診療科	脳神経外科
研究責任者	井川 房夫
意義・目的	<p>我が国では、脳ドック検診やMRIの普及で、未破裂脳動脈瘤の発見される割合が高くなっていますが、欧米に比し約3倍破裂しやすいという報告があります。くも膜下出血（SAH）の原因の多くは脳動脈瘤破裂であり、再破裂が予後を大きく左右します。SAHについての治療法は、開頭クリッピング術に加え、コイル塞栓術が可能となり、脳血管攣縮、遅発性脳虚血、転帰なども変化してきました。</p> <p>本研究では、破裂脳動脈瘤の大きさ・部位・年齢・性差、脳血管攣縮・遅発性脳虚血、治療法・転帰の長期変化を調査します。このことにより、脳動脈瘤破裂の危険因子を検討し、最終的に動脈瘤破裂を欧米並みに減少させることを目的とします。</p>
研究の方法 (試料・情報の利用 方法・他施設からの 提供を受ける方法を 含む)	対象患者さんにおいて、診療録より「利用・提供する試料・情報の項目」に示す情報について収集します。個人を特定できる情報は収集しません。
利用・提供を受ける 試料・情報の項目	入院時年齢、性別、SAH発症日、入院日、破裂部位、動脈瘤性状、動脈瘤サイズ分類、動脈瘤最大径、治療内容、CT画像分類、入院時重症度分類、脳血管攣縮の有無、脳梗塞、退院時神経学的分類、既往症、合併症、血液データ、投与薬物等
個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。
結果の公表	研究成果によって複数回、投稿論文として公表します。
備考	

***** お問い合わせ先 *****

島根県立中央病院
脳神経外科 井川 房夫
電話：0853-22-5111

事務担当：臨床研究・治験管理室
電話：0853-30-6590（直通）
